

校訓	真善美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年5月30日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 認め合う心、確かな学力、健やかな心を育てる	「荒中だより」 5月 阜月 第4号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

成長のための大きな一歩です【各学年 学校行事を終えて】

昨日、1年生が林間学舎から元気に帰ってきました。1学期に各学年で予定していた大きな行事を終えました。生徒の皆さんは、行事を通してさまざまなことを感じ、考えたことでしょう。現在、事後学習などに取り組んでいますが、今一度、仕切り直して、行事で得たものを普段の生活や学習に活かしていきましょう。

《修学旅行編》

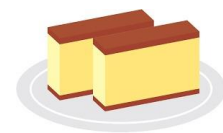
さわやかな初夏の陽気の中、三年生は長崎へ修学旅行に行き、見識を深めてきました。一日目は、長崎平和公園を中心に、爆心地や防空壕跡、永井隆記念館・如己堂などをめぐる平和学習を行いました。『長崎さるく』の方々の丁寧な説明を熱心に聴く姿が印象的でした。『さるく』の代表の方からも、三年生の皆さんの事前学習や真剣に話を聞く姿勢について、お褒めの言葉をいただきました。そして平和祈念像の前で行われたセレモニーでは、黙とう後の平和宣言文の中で、「自分たちにできること」の大切さ、人の命も自分の命も大切にすること、平和で人権が尊重される世界・未来をつくっていくことへの決意が力強く語られました。



二日目、楽しみにしていた長崎班別活動では、レトロな洋館が点在するグラバー園や世界遺産の大浦天主堂、鎖国時代に外国人居住区だった出島、眼鏡橋や亀山社中などの名所を満喫しました。どの班も協力して、しっかりと行動できていました。たくさんの笑顔を見ることができました。

最終日は、琴海でクラス対抗ペーロン大会を行いました。ペーロン協会の皆さんからこぎ方やタイミングなどを教えていただきながら行ったレースは、大変盛り上がりしました。その後、太宰府天満宮へ移動し、合格祈願や班での散策など、思い思いに過ごし、旅の終わりを偲んでいました。

毎年、修学旅行を経験した三年生は、旅行後一段とたくましく成長し、背中で下級生を引っ張ってくれる存在になります。今年の三年生も、これからの学校生活の中で、そのような学年であることを期待します。



《トライやるウィーク編》

2年生は、5月12日～16日を中心に、64事業所に分かれて『トライやるウィーク』を実施しました。この期間に2年生の職員やトライやる推進委員の方々が生徒の様子を見て回りました。多くの生徒が生き生きとした表情で頑張っていました。2年生の皆さんは、この経験を通して、あいさつや仕事に対する姿勢、人との関わり方などを自分なりに感じたことでしょう。

トライやるが終わった後に、天神川小学校から連絡をいただきました。期間中にも生徒が頑張っている様子を連絡いただいていたしましたが、話を聞くと、荒中生と関わった小学生の保護者から、お礼の手紙を受け取ったということでした。これまでも事業所の方から生徒の様子を教えていただいたり、直接関わった方からお褒めの言葉をいただいたりすることは多くあったのですが、関わった方のご家族からお礼の言葉をいただくといったことはあまり経験がないことでした。これは、きっと皆さんが活動に真剣に向き合い、相手のことを思いやり、考えて行動をした結果だと感じました。



トライやるでは、期待した仕事内容ではなかった人がいるかもしれません。社会で仕事をする上では、自分のやりたい仕事ばかりがあるわけではありません。そこで「こんなことをするためにこの会社に入ったわけじゃない」と自分に満足せずに仕事をするのは、自分のためにも顧客のためにも、会社のためにもなりません。同じ仕事をするのでも、実は、その人の心構えしだいで見え方が違うのです。前述の生徒たちは、この機会を前向きにとらえて頑張れた人だと思います。皆さんは、どうでしたか？是非、この貴重な体験を前向きにとらえ、今後の学校生活でさらに成長し、自分の進路選択につなげてください。

※《林間学舎編》については、次号で紹介します。